

# 独立リーグLOVE

## 【ライター紹介】

### ●メイルマン(めいるまん)

1972年生まれ。世界放浪の旅、スポーツ観戦の日々を過ごしなが、独立リーグと出会う。BCリーグを中心に精力的に取材を続ける“夢追い人”。

### ●中川路里香(なかかわじ・りか)

関西を中心に取材活動を続けて10年。週への「関西独立リーグ」担当になり、スポーツの世界に本格参戦。選手が内に秘めた“情熱”を伝えます。

### ●高田博史(たかた・ひろふみ)

1969年4月2日生まれ。徳島県出身。四国リーガーを追いかけ、ときには四国にとどまらず全国各地へと飛び回る。いまや週々「独立リーグ」ローテの柱。

## 2012年独立リーグチーム・ラインアップ

- ▼ベースボール・チャレンジ・リーグ(BCL)
  - 石川ミリオンスターズ
  - 福井ミラクルエレファント
  - 富山サンダーバズ
  - 新潟アルビレックス
  - 群馬ダイヤモンドペガサス
  - 信濃グランセローズ

## ▼関西独立リーグ

- 紀州レンジャーズ
- 兵庫ブルーサンダーズ
- 神戸サンズ
- 06ブルズ
- 大和侍レッズ

## ▼四国アイランドリーグplus

- 徳島インディゴソックス
- 香川オリブガイナース
- 愛媛マンダリンパイレーツ
- 高知ファイティングドッグス

## 悔しさを胸に

紀州が苦しんでいる。前期は4位に終わり、後期も3連敗スタート後に2勝したが、19日時点での戦績は2勝4敗と負けが先行している。原因の一つに、ヒジ痛により戦線離脱している抑えの徳永雄哉(愛媛大)に代わり、先発から小林史也(飯山南高)が回らざるを得ないなどの投手陣の苦しい台所事情がある。

「一番バッターなので、とにかく自分が昇に出て、少しでもチームの雰囲気良くしたいです。小野瀬将紀(常磐大)は、こういう状況だからこそ、強い口調で語る。勝ちにこだわった選手である」と、紀州・石井監督は語る。



50分5.8秒の俊足を武器に、その姿勢は攻守に表れる。出塁すれば、二盗、三盗と果敢に攻め、一塁手としての守備範囲も広いと目撃するほどファイブプレーも多い。

「足の速い選手はいくらでもいますから。このオフにはトレーナーから、スタートの切り方やスライディングの位置を徹底的に指導してもらい、前期の盗塁王に輝いた。名手と言われるNPBの選手のビデオを3、4時間見続け、見えてきた捕球の仕方を自分のものにしてしようと練習に取り入れるなど、努力家でもある。

その裏には、首位をひた走りながら、シーズン終了間際に優勝を逃した悔しさがある。

東日本大震災の津波で茨城県の実家が被災、少しでもを送りてほしいという両親を説得して、今季、このリーグに残った。

「昨季、調子がずっと悪いときも、辛抱して監督は使いつづけてくれました。監督を肩上げてチームに恩返しをしたい」という思いもある。どれほどチームが劣勢でも「流れを変えられる選手」としてここからの上昇を目指す。

夏休み最後の思い出を作ってもらおうと、兵庫は、8月31日に「感謝デー」三田だーブルサンキュー」と題したイベントを催す。

キップスタジアム横の多目的グラウンドで、小中学生向けにスポーツフェスティバルを開催するほか、教育提携を結ぶ若草大から、元ラグビー日本代表で特任教授の大八木淳史氏と客員教授で元阪神の平田勝男氏を招いてトークショーを予定。ご当地グルメの販売ブースも用意するなど、にぎやかな一日となりそうだ。

7回には、観客全員でいさものがかりの「ありがとを」を合唱する計画もあるとのことである。ファン参加型イベントデーとなりそうだ。

リポート／中川路里香

関西独立リーグ順位表(後期)

順位	チーム	試合	勝利	敗戦	引分	勝率	差
1	兵庫	9	7	1	1	.875	—
2	06ブ	10	6	4	0	.600	2.0
3	神戸	11	4	6	1	.400	4.0
4	紀州	6	2	4	0	.333	4.0
5	大和	10	3	7	0	.300	5.0

8月19日現在

# Japan Independent League

# 日本独立リーグ Watch

～密着ライターによる  
ウィークリーレポート～

## 新潟にマジック点灯

8月17日の富山戦で勝利した新潟に後期地区優勝マジック15が点灯した。一方、後期はまだまだ新潟から勝ち星のない北陸地区は壊滅状態だ。19日の時点で北陸地区3チームは上信越地区最下位、群馬の勝率に届かない。異常事態とも言える両地区の格差を埋めるために北陸地区は奮起しなければならない。

新潟に唯一食らいついているのは信濃。新潟が喫した3つの黒星は信濃がつけたもの。後期日程残り1カ月の中で4度ある新潟と信濃の直接対決からは絶対に目が離せない。

## 信濃エースの意地

昨年後期の信濃は残り3試合でマジック2としていたが、まさかの連敗で新潟に逆転を許した。その3試合の初戦を任されたのは杉山慎(日大)。「あの試合で勝てれば信濃は優勝していたはず」と杉山は悔しさをにじませて言う。さらに、その試合で勝利投手となれば杉山は最多勝のタイトルも手にしていた。責任を感じた杉山は雪辱を誓って今季を迎えた。そして



▲信濃をけん引するエースの杉山慎

7月投手MVPを受賞するなど、今季もエースの貫録を見せている。ここ一番で三振を奪う力を持ちつつ、真つすぐとスライダーを軸に打たせて取るのが杉山の投球。ここにたどり着いた理由はチームメートの守備にある。市船橋高時代は現日本丸の村田和哉、クワプチームの全足利時代は現OC史上最高の守備と称されながら惜しまれつつ引退したフミヒサ(佐野史郎)など華々しい選手がセンターを守っていた。「守備への信頼感を教えてくれた彼らには心から感謝している」

いつも感謝を口にしている杉山であるが、周りから尋ねられない限り、かつてともにプレーをした選手の名前を自ら具体的に挙げることはない。「彼らの名前を出すことは、過去の栄光にすがりついているような気分になる。思い出を振り返るのははずっと先のことだから」

普段は落ち着いた雰囲気を感じさせる杉山であるが、胸に秘めた闘志には熱いロマンと意地がある。男の生きざまを懸けて信濃を悲願の優勝へと導こうとしている。

杉山慎という名のエースにぜひ注目してほしい。

リポート／メイルマン

## BCLリーグ順位表(後期)

順位	チーム	試合	勝利	敗戦	引分	勝率	差
1	新潟	19	16	3	0	.842	—
2	信濃	20	12	8	0	.600	4.5
3	群馬	18	7	10	1	.412	8.0
1	石川	18	7	11	0	.389	—
2	富山	18	6	11	1	.353	0.5
3	福井	17	5	11	1	.313	1.0

8月19日現在

## 恩返しへの帰郷

四国リーグ、7月度の月間MVPが発表されている。投手部門は4試合に登板し2勝1敗、防御率0.95(19投球回)、10奪三振の成績で、高知・山中智貴(ツネイシホールディングス)が5年目の初受賞。

「昨季、良かったときの感覚を取り戻しつつあります。アピールポイントのストレートをもっと磨きたい」。野手部門は29打数12安打、打率.414、11打点、2本塁打、得点圏打率.455の成績で香川・星野雄大捕手(伯耆セントリス)が入団1年目の初受賞となった。

「前期優勝して、余裕をもって後期に入りました。捕手の仕事もきちっとできれば打撃にもつながる。7月はその辺がうまいことかみ合ったかな、と思います」

彼もまた、06年6月度の投手部門月間MVP受賞者である。8月19日、高知・室戸市のマウンドに懐かしい顔が帰ってきた。

相原雅也さんはリーグ初年度の06

## 始球式に臨んだ元高知の相原雅也さん



「真つすぐを思い切つて」6年間の雄姿をほうふつさせる力強いストレートが決まった。

リポート／高田博史

四国アイランドリーグplus順位表(後期)

順位	チーム	試合	勝利	敗戦	引分	勝率	差
1	香川	23	12	8	3	.600	—
1	愛媛	21	12	8	1	.600	0.0
3	徳島	25	12	10	3	.545	1.0
4	高知	21	3	14	4	.176	7.5

8月19日現在